

発行所 (郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング781号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007-1447  
編集責任者 堀内六郎  
印刷所 関東図書株式会社  
定価200円 (年間購読料参千円)  
1982年5月25日発行  
第14巻 第5号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.14 No. 5号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## スウェーデンの生活保障

The Security of Living on Sweden

理事・慶応義塾大学教授 庭田 範秋

Prof. Noriaki Niwata

生活保障といえば、社会保障が代表で中心ということは、これはすべての人々が知っていることであり、今さら繰り返す必要もあるまい。従ってここでは社会保障以外の生活保障について、スウェーデンを中心に世界の主だった国々の事情を述べようと思う。まず第一に私的保障の代表役としての生命保険についてであるが、最近はやが国でも公的福祉の財政悪化による停滞と今後の発展拡充の期待薄で、私的・自助努力が見直されつつ大いに評価され、この傾向に則って生命保険が国民意識の中に急浮上してきたわけで、そのこのところの発展も驚異的とされている。

生命保険契約高ではアメリカが世界1位(706兆円)、日本2位(510兆円)、スウェーデン9位(25兆円)であるが、人口一人当たり契約高では日本世界1位(440万円)、2位アメリカ(320万円)、3位スウェーデン(302万円)。国民所得に対する契約高の割合では日本世界1位(270%)、3位アメリカ(154%)、4位スウェーデン(128%)とある。あれだけ公的年金が充実し、社会保障全般が高水準にあるスウェーデンにして、私的・自助努力が見直されつつ大いに評価され、この傾向に則って生命保険が国民意識の中に急浮上してきたわけで、そのこのところの発展も驚異的とされている。

もう一つ数字を示すと収入保険料における生・損保の市場占拠率をみると、アメリカが収入保険料の33%程度が生保のそれ、従って67%程度が損保のそれとなる。アメリカ人が生保による生活保障よりも、損保による財産保障を通じての生活

保持に、より熱心であることが分かり、同時にアメリカ人が物的資産で豊かなことを示している。それに比べると日本は68%程度が生保の収入保険料で、従って32%程度が損保のそれである。これだけ多い率を生保に振り向けての上での、見ようによっては世界第一位の生命保険国なのである。と同時に物的資産の絶対量が少ないのか、あるいは物的財産の保全にこだわらない国民なのか、そのいずれかが原因で損保へは異常に少ない率しか保険料を支出していない。そしてまことに天晴なこと、スウェーデンは文明国中の中間あたりにこの問題で位置していて、生保に38%程度、損保に62%程度と割り振っている。収入保険料総額の38%で、1.28年分強の生活費相当の生保を購入するスウェーデンと、68%で2.7年分を買う日本とでは、いずれがより福祉的か。それに社会保障の水準を加味して考えると、福祉国家としての評価はどう変わってくるであろうか。

### 目次

スウェーデンの生活保障……………庭田 範秋…	1
戦後のスウェーデン文学(エスプマルク教授)…	2
高齢化社会視察調査団について(3) ……………小野寺百合子…	3
日瑞友好議員連盟結成さる……………	4
原発、スウェーデンの比率3位……………	4
(ご案内) 公開講演会……………	4

# 第2次世界大戦後のスウェーデン文学

## The Post-War Swedish Literature

ストックホルム大学教授 エスプマルク氏特別講演会

Prof. Kjell Espmark of the University of Stockholm

スウェーデン文学を歴史的に見るとき、西ヨーロッパ思想の影響を受けて、少しづつ時期をおくらせながら、それぞれの時代の風潮を現わしている。すなわち1600年代はルネッサンス、1700年代はフランスローマン主義、1800年代はドイツローマン主義、1890年にはローマン主義に対する国際反動主義といったものを反映したが、スウェーデン文学は西ヨーロッパ文学のこだまであるとする説は正しくない。1700年代のスウェーデンボルグはヨーロッパのみならず、世界的な大作家であったし、1800年代後半のストリンデベリは現代ヨーロッパの最大の改革者として、ドイツやフランスに後継者を生んだほどである。スウェーデンは大陸文学の新しい思想や方法を取り入れながら、その刺激の上にスウェーデンの特徴を創り上げた。たとえば『令嬢ジュリー』はフランスの自然主義から教を受けたのだが、世界最高の自然主義文学と認められている。セルマ・ラーゲルレフは1800年代最後のスウェーデン文学者として、その『ニルスの旅』は世界的に見てもすばらしい作品である。1900年代にはいってペル・ラーゲルクヴィストは、出発点はフランスながらその表現主義ははるかに抜きんでて、『バラバ』に独自の道を開いた。1930年はスウェーデン文学第2の高潮期であった。文学を国際的に開放して外国文学を紹介すると同時に、スウェーデン独自の作家たちが新しい表現の可能性を追求した。

第2次大戦後のスウェーデン文学を10年ごとに区切って、それぞれの時期を特徴づける傾向が見られるが、それは近視眼的の見方であって、それでは却って戦後時代の活力を見失うことになる。19世紀から20世紀へかけて輩出した巨匠たちと若い文学者たちが共存し、今こそスウェーデン文学の黄金時代を現出しているというべきである。

現在のスウェーデン文学には二つの流れがある。一つは人間の普遍的なものへの努力、すなわちモダニズムへの指向であり、もう一つは空間の中に一片の現実を求める努力であって、スウェー

デンの現実をみつめるものである。そのために社会の底辺にある貧しいものを哲学的に取り上げる人、キルケゴールの現代的後継者として自然科学に神秘主義の照明を当てる人、現実のドキュメンタリーの2大巨匠、外国のドキュメンタリーをスウェーデンに持ち込んできた作家たちなどが次々と出てきている。70年代の特徴は、第2次大戦中および戦後に、今日のスウェーデン社会がどうしてここへきたかの評価としての小説であり、詩である。中でイェルシルドはテレビと映画を通じて、文学史上最高の浸透度を示している。

全く予期しなかった分野で、文学的活力を發揮したのが児童文学である。セルマ・ラーゲルレフはアストリット・リンドグレンというよい後継者を得たことになる。

### スウェーデンアカデミーについて

スウェーデンアカデミーは1786年に、フランスにならってグスタフ3世が創立した。会員は高級官僚、作家、大学教授など18名である。スウェーデン文学と言語と歴史の純粋性と高尚性の保持が目的であったが、後にスウェーデン語の辞書を作り、100年前の語彙集は今も版を重ねている。現在は特別辞書(28巻)をLund大学に委託作成中で、今世紀末までには完成の見込みである。アカデミーは政府からも官庁からも独立した機関であって、資金調達は官報の独占権を主とする。

ノーベル文学賞については、如何なる圧力にも屈することなく、アカデミーが受賞者選考の責任と権威をもつ。全世界の文学作品に目を通すためには、専門家による委員会を結成して受賞候補者の提案をさせるが、決定は極秘裡にアカデミーが行い、10月に発表し12月10日の受賞式となる。

(教授はスウェーデンアカデミー会員で詩人、文学史家である。以上は4月21日国立教育会館において、北欧文化協会主催、スウェーデン大使館後援により行われた講演会の講話の要約である。小野寺百合子)

# 高齢化社会視察調査団について (3)

Research Group Tour on the Old-aged Society

理事 小野寺 百合子

Director Yoriko Onodera

## SPP (Svenska Personal Pensionskassan)

(スウェーデン職業年金保険会社)

SPPは調査団の最初の訪問先であったが、協約年金はかなり複雑でその場では理解しにくかった。SPPで渡された多くの資料を整理したので、ここに協約年金について報告する。

スウェーデンの年金制度を大きく分けると次の通りになる。

- 公的年金 { 1) 国民年金 (AT)
- { 2) 国民付加年金 (ATP)
- 協約年金 { 1) ホワイトカラー年金 (ITP)
- { 2) ブルーカラー年金 (STP)

SPPは協約年金を運営する一種の保険会社であって、ITPはSPPが運営主体であるのに対し、STPはSPPが委託運営している。公的年金は社会保険庁下にある社会保険基金が運営している。

協約年金とは従来個々の会社が実施していた企業年金を二つの組織にまとめてITPとSTPとなったものである。

ITPはSAF(経営者連盟)とPTK(職員労働組合連合会)との間で結ばれた協定によって、公的年金の上に更に上のせする年金の制度である。PTKとはいわゆるホワイトカラー労働組合TCO(4団体)と、スウェーデン専門職労働組合SACO(7団体)との総称だが、それに国家、地方公務員労働組合が加わった。これに含まれている団体のいくつかは1960年以来SAFとの間に協定を結んで、個々に協定年金を実現したが、労働組合すべてが合同したPTKとなり、公務員の組合年金と同レベルの協約年金が実現したのは1977年のことである。

STPは1975年にはじめてSAFとLOとの間で、団体傷病保険とのコンビで結ばれた協定年金であって、ITPと同じく公的年金に上のせする年金である。

スウェーデンに限らず、ヨーロッパ各国ではブルーカラーとホワイトカラーの区別が明瞭であるが、協約年金においてもその差異は大きい。

ITPの対象は民間商工業ホワイトカラー労働者で満28歳から資格がある。

老齢年金の年金年齢は65歳、完全年金のための期間は360ヶ月(30年)で不足の1ヶ月につき1/360

減額する。年金額は最終給料に対し、基礎額の7.5倍までは10%、7.5~20倍までは65%、20~30倍までは32.5%である。本人の意志による繰上げ支給は55歳から減額支給、繰延べ支給は増額となる。

部分年金は60歳以上でパートタイム労働に移った場合に、失った収入に対して収入が基礎額の7.5倍までは50%(公的部分年金と同率)、それ以上30倍まで保障される。

傷病手当は労働能力が50%以下の場合に、3ヶ月までは公的健康保険の給付だけだが、その後5%を上らせて給料の95%を保障する。

早期年金は労働能力の低下が固定したときの年金である。収入が基礎額の7.5倍まではAT+ATP+ITPで給料の80%にする。それを越す分に対しては老齢年金と同じである。

家族年金は男女とも遺った配偶者に権利がある。条件は60歳になる前の結婚か、結婚生活5年以上か、共通の子のあるかの何れかである。基本となる年金額は、最終給料のうち基礎額の7.5倍までは公的年金がカバーするが、それを越す30倍までに対して老齢年金の半分の%が支給される。男やもめには公的年金がないから給料の20%である。特別寡婦年金とは、公的年金で除外される寡婦に給料の26%が出るものである。

配偶者は子供の有無とその数により、遺児だけではその数により、基本の年金額と対する%がきまってくる。子供は20歳まで(APでは18歳、ATPでは19歳)。

STPの対象は賃金労働者で、満歳28から資格があり、老齢年金年齢65歳はITPと同じである。STPの違うところは、満期の年限が30STP年(1STP年は労働時間832時間)で満期に不足1の年ごとに減額となる、基本の年金額は55~59歳の5ケ年間の最良の3ケ年の平均年金対象収入(収入から基礎額を引き基礎額の7.5倍までの間の額)である、部分年金は無い、年金の繰延べだけで繰上げ支給はないなどである。また早期退職年金は努定団体傷病保険がカバー、遺族年金は団体生命保険がカバー、STPには含まれない。

以上のように協約年金におけるホワイトカラーとブルーカラーの格差は、平等政策の進んでいる筈のスウェーデンで意外に大きい。(終)

## 日瑞友好議員連盟結成さる

このほど日瑞友好議員連盟が結成され、それを祝って去る4月13日午後6時半からスウェーデン大使館公邸でその発会式が行われた。

まず、ルーネウス大使は、日瑞文化交流の新しい時代が開かれるものと祝辞を述べ、それに答えて、代表格の中山前総務長官が、これには100余名の国会議員が参加していることを強調、桜内外務大臣からも、国際平和、人類の文化の向上に資するところ多大であるとの祝辞が述べられた。

日瑞社会・技術・文化・教育の交流は単なる研究者の交換に留まることなく、こうした組織を通しての交流がかねてから要望されていたことであり、スウェーデン社会研究所に新たな役割が付与されたものといえよう。

なお当研究所からは、松前会長ほか数名が出席し、日瑞国会議員その他の関係者との有益な意見の交換と懇談を行った。

## 原発、スウェーデンの比率3位

米原子力産業会議(AIF)が4月9日発表した米国を除く世界の原子力発電の現状まとめによると、スウェーデンの原子力開発は世界第3位であることが明らかとなった。

現在、原発を運転中の国は22か国で、計画および建設推進中の国を含めると40か国、これらのほか、新たにアルジェリア、モロッコ、ケニア、シリア、バングラデシュなどが導入を検討中とされている。

総発電量に占める原子力の割合では、首位のフランス(38%)に次ぐのはスイス(28%)、スウェーデン(27%)、ベルギー(23%)、台湾(19%)、フィンランド(17%)、日本(16%)、西ドイツ(14%)の順(米国は10.1%)と発表されている。

ちなみに、原子力発電量では80年まで米国(81年末5932万キロワット)に次いで2位だった日本(同1551万キロワット)はフランス、さらにソ連(同1579万キロワット)にも抜かれて4位に転落している。(編集部)

## ご案内—ご来場をお待ちいたします

スウェーデン社会研究所設立15周年記念

### 公開講演会

『いま、みつめよう平和と政治』

と き 昭和57年5月25日(火) 午後6時より8時

ところ 科学技術館ホール

(千代田区北の丸公園内—地下鉄東西線竹橋駅下車)

挨拶 松前 重義 スウェーデン社会研究所 会長  
平田 富太郎 スウェーデン社会研究所 所長  
ベッティル・ユベウス スウェーデン大使館 報道官

講演 「スウェーデンに見る平和の生きざま」  
— 北欧デモクラシーと非核地帯  
明治大学教授 岡野加穂留氏  
「オンブズマンによる国政査察」  
— 主権者としての民衆による監視  
環境・社会政策研究所主宰 潮見憲三郎氏

映画 「アドバンテージ・スウェーデン」 スウェーデン大使館 提供

主催 社団法人 スウェーデン社会研究所  
東京新聞

後援 スウェーデン大使館  
社団法人 日瑞基金